

福島県新地町医療支援活動報告

SaaS/クラウド型電子カルテによる
継続的医療実践の試み

常磐線 新地駅周辺の惨状



新地町: 救護所、避難所医療支援

- 当初は三井記念病院 / 横須賀共済病院
- 4月15日以降、福岡県JMAT参加
 - 姫野病院: SaaS/クラウド型電子カルテ設置
 - 福岡市民病院 水光会総合病院
 - 済世会福岡総合病院 大牟田市立病院(2班)
 - 三井記念病院(2班)
 - 久留米大学病院(4班) 九州大学病院

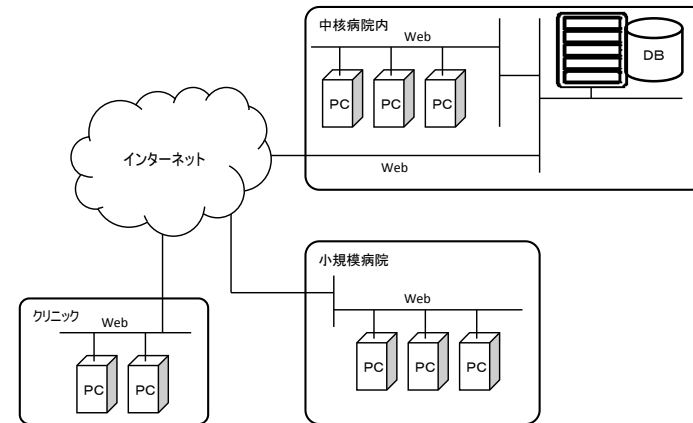
多数の班が、遠隔地で短期間に交代

- 前班の診療内容が、後の班に引き継ぎにくい
- 救護所、点在する避難所間の情報共有困難
- 前班への疑義照会が困難
- 活動終了後の症例検討が困難
- 本部から、現地の医療支援状況が見えない
 - 効率的な支援活動がしにくい
 - 見落としの危険
 - 正確な活動記録なしに改善なし

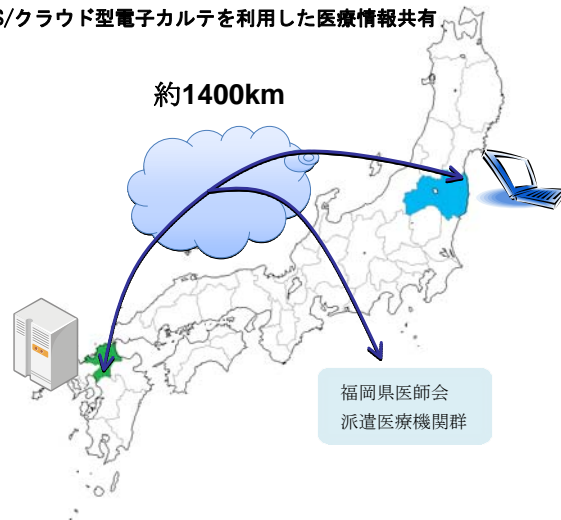
SaaS/クラウド型電子カルテで 情報の共有化/継続的医療を実現する

- 安定した電源、安全な遠隔地にサーバー設置
- 災害に強いインターネットを活用
- 離れた救護所、避難所間でも一元管理
- 県医師会本部からもモニター可能
- 予定JMATは事前に状況把握可能
- 帰福したJMATも電子カルテ参照が出来、現地のJMATと疑義照会に対応可能

SaaS/クラウド型電子カルテは、多施設で共同利用できる



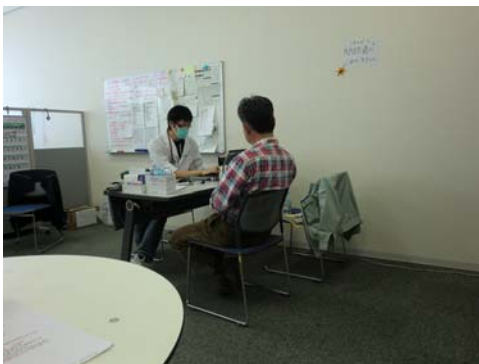
SaaS/クラウド型電子カルテを利用した医療情報共有



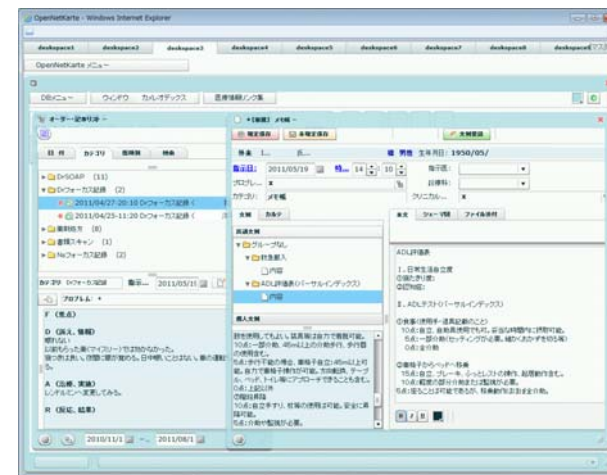
紙カルテの電子化、備品整理



救護所診察



電子カルテ画面イメージ



避難所巡回



次のJMA Tへ引き継ぎの様子



まとめ

- 福岡県有志病院群から福島県新地町にJM ATを派遣、医療支援活動を行った
- SaaS/クラウド型電子カルテの設営を行い、福岡県内サーバーから1400km離れた新地町に医療情報支援を行った。
- 多数のJMAT間、県医師会本部間の医療情報共有に有用であった

今後への提言

- 平時から、全国レベルでSaaS/クラウド型の災害医療支援システムを構築してはどうか
- 平時から、上記システムの習熟訓練を実施してはどうか
- 平時から、医師会サーバー群を連携してプライベートクラウドを構築しておき、災害に備えたらどうか
- 平時から、遠隔地同士の病院サーバーを連携して、被災時も速やかに医療継続できるようにしてはどうか(次図参照)

今後への提言
遠隔地の病院同士が、平時から電子カルテサーバーを連携しておけば、大規模災害でも早期から電子カルテの復旧が可能となる

